



## RADIUS 集中型フィルタ管理

RADIUS 集中型フィルタ管理機能は、ACL の設定と管理を容易にするフィルタ サーバーを導入しています。このフィルタ サーバーは、集中型 RADIUS リポジトリおよび管理ポイントとして機能します。ユーザーは、アクセス コントロール リスト (ACL) フィルタを集中的に管理および設定できます。

- [RADIUS 集中型フィルタ管理の前提条件 \(1 ページ\)](#)
- [RADIUS 集中型フィルタ管理の制約事項 \(1 ページ\)](#)
- [RADIUS 集中型フィルタ管理に関する情報 \(2 ページ\)](#)
- [RADIUS 用の集中型フィルタ管理の設定方法 \(3 ページ\)](#)
- [RADIUS 集中型フィルタ管理の設定例 \(6 ページ\)](#)
- [その他の参考資料 \(8 ページ\)](#)
- [RADIUS 集中型フィルタ管理の機能情報 \(9 ページ\)](#)

### RADIUS 集中型フィルタ管理の前提条件

- 新しい RADIUS VSA をサポートしていないサーバーにディレクトリ ファイルを追加しなければならない場合があります。サンプルのディクショナリとベンダーファイルについては、このドキュメントの後半にある「RADIUS ディクショナリとベンダーファイルの例」を参照してください。

ディレクトリ ファイルを追加する必要がある場合は、RADIUS サーバーが非標準であり、新しく導入された VSA を送信可能であること確認してください。

- リモート ユーザーがダイヤルインして IP 接続を確立できるように、RADIUS ネットワーク認証をセットアップすることができます。

### RADIUS 集中型フィルタ管理の制約事項

この機能では複数の方式リストがサポートされていません。単一のグローバルフィルタ方式リストが設定できるだけです。

## RADIUS 集中型フィルタ管理に関する情報

RADIUS 集中型フィルタ管理機能以前は、ホールセールプロバイダー（ACL などの顧客サービスに対して特別料金を課している）が、顧客の網羅的な ACL の適用を阻止できました。この行為は、ルータの性能や他の顧客に影響を与える可能性があります。この機能では、ACL 管理用の集中型管理ポイント（フィルタサーバー）が導入されます。フィルタサーバーは、ACL 設定用の集中型 RADIUS リポジトリとして機能します。

フィルタサーバーとして使用されている RADIUS サーバーがアクセス認証に使用されているサーバーと同じかどうかに関係なく、ネットワークアクセスサーバー（NAS）はフィルタサーバーに対して別のアクセス要求を開始します。設定されていれば、NAS は、認証ユーザー名と 2 つめのアクセス要求用のフィルタサーバーパスワードとして、フィルタ ID 名を使用します。RADIUS サーバーは、フィルタ ID 名を認証して、access-accept 応答内に必要なフィルタリング設定を返そうとします。

ACL のダウンロードには時間がかかるため、NAS 上でローカル キャッシュが維持されます。ローカル キャッシュ上に ACL 名が存在する場合は、フィルタサーバーに問い合わせることなくその設定が使用されます。



(注) キャッシュが適切に設定されていれば、遅延は最小限に抑えられるはずです。ただし、フィルタが必要な最初のダイヤルインユーザーは必ず待たされることとなります。これは、初めての場合は、ACL 設定が読み込まれるためです。

## キャッシュ管理

グローバルフィルタ キャッシュは最後に ACL をダウンロードした NAS 上で維持されます。そのため、ユーザーは、過負荷状態の RADIUS サーバーに対して同じ ACL 設定情報を何度も要求する必要がありません。ユーザーは、次の基準が満たされている場合にキャッシュをフラッシュする必要があります。

- エントリが新しいアクティブコールに関連付けられた後に、そのエントリに関連付けられたアイドルタイマーがリセットされる（そのように設定されている場合）。
- アイドル時間スタンプの期限が切れたエントリが削除される。
- グローバルキャッシュのエントリが指定された最大数に到達した後に、アイドルタイマーがアイドル時間限界に最も近いエントリが削除される。

1 つのタイマーがすべてのキャッシュエントリの管理に使用されます。このタイマーは、最初のキャッシュエントリの作成時に開始され、リブートされるまで定期的に行われます。タイマーの期間は、キャッシュアイドルタイマーの設定時に指定された最小粒度に対応し、毎分期限切れになります。タイマーが 1 つしかないことによって、ユーザーは、キャッシュエントリごとに別々のタイマーを管理する必要がありません。



- (注) 単一のタイマーは、タイマーの期限切れの精度に欠けます。約 50% のタイマー粒度に平均誤差が含まれています。タイマー粒度を下げると平均誤差も下がりますが、性能が低下する可能性があります。キャッシュ管理には正確なタイミングが必要ないため、誤差遅延を受け入れる必要があります。

## 新しいベンダー固有属性のサポート

この機能は、次の 2 つのカテゴリに分類可能な 3 つの新しいベンダー固有属性 (VSA) のサポートを導入しています。

- ユーザー プロファイルの拡張
  - Filter-Required (50) : 指定されたフィルタが見つからなかった場合にコールを許可するかどうかを指定します。存在する場合は、この属性が、すべての認証、許可、アカウントティング (AAA) フィルタ方式リストの後に適用されます。
- 疑似ユーザー プロファイルの拡張
  - Cache-Refresh (56) : エントリが新しいセッションから参照されるたびにキャッシュ エントリを更新するかどうかを指定します。この属性は、**cache refresh** コマンドに対応します。
  - Cache-Time (57) : キャッシュ エントリのアイドル タイムアウトを分単位で指定します。この属性は、**cache clear age** コマンドに対応します。



- (注) すべての RADIUS 属性が、すべてのコマンドラインインターフェイス (CLI) 設定よりも優先されます。

# RADIUS 用の集中型フィルタ管理の設定方法

## RADIUS ACL フィルタ サーバーの設定

RADIUS ACL フィルタ サーバーを有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<pre>Router(config)# <b>aaa</b> <b>authorization cache</b> <b>filterserver default</b> methodlist[methodlist2...]</pre>	<p>AAA 認可キャッシュと、RADIUS フィルタ サーバーからの ACL 設定のダウンロードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>default</b> : デフォルト認可リスト。</li> <li>• <b>methodlist [methodlist2...]</b> : <b>password</b> コマンド ページに列挙されたキーワードの 1 つ。</li> </ul>

## フィルタ キャッシュの設定

この項の次の手順に従って、AAA フィルタ キャッシュを設定します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. Router(config)# **aaa cache filter**
4. Router(config-aaa-filter)# **password 0 7} password**
5. Router(config-aaa-filter)# **cache disable**
6. Router(config-aaa-filter)# **cache clear age minutes**
7. Router(config-aaa-filter)# **cache refresh**
8. Router(config-aaa-filter)# **cache max number**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><b>enable</b></p> <p>例 :</p> <pre>Router&gt; enable</pre>	<p>特権 EXEC モードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<p><b>configure terminal</b></p> <p>例 :</p> <pre>Router# configure terminal</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ 3	<p>Router(config)# <b>aaa cache filter</b></p>	<p>フィルタ キャッシュ設定を有効にして、AAA フィルタ コンフィギュレーション モードに入ります。</p>
ステップ 4	<p>Router(config-aaa-filter)# <b>password 0 7} password</b></p>	<p>(任意) フィルタ サーバー認証要求に使用されるオプションパスワードを指定します。</p> <p><b>0</b> : 暗号化されていないパスワードが後に続くことを示します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<p><b>7</b> : 非表示パスワードが後に続くことを示します。</p> <p><i>password</i> : 暗号化されていない (クリアテキスト) パスワード。</p> <p>(注) パスワードが指定されなかった場合は、デフォルトパスワード (「cisco」) が有効になります。</p>
ステップ 5	Router(config-aaa-filter)# <b>cache disable</b>	(任意) キャッシュを無効にします。
ステップ 6	Router(config-aaa-filter)# <b>cache clear age minutes</b>	<p>(任意) キャッシュエントリの期限が切れ、キャッシュがクリアされるタイミングを分単位で指定します。</p> <p><i>minutes</i> : 0 ~ 4294967295 の任意の値。</p> <p>(注) 時間が指定されなかった場合は、デフォルト (1400分 (1日)) が有効になります。</p>
ステップ 7	Router(config-aaa-filter)# <b>cache refresh</b>	(任意) 新しいセッションの開始時点でキャッシュエントリをリフレッシュします。このコマンドは、デフォルトでイネーブルになっています。この機能をディセーブルにするには、 <b>no cache refresh</b> コマンドを使用します。
ステップ 8	Router(config-aaa-filter)# <b>cache max number</b>	<p>(任意) キャッシュで特定のサーバー用に維持できるエントリの絶対数を制限します。</p> <p><i>number</i> : キャッシュに含めることが可能なエントリの最大数。0 ~ 4294967295 の任意の値。</p> <p>(注) 数値が指定されなかった場合は、デフォルト (100 エントリ) が有効になります。</p>

## フィルタ キャッシュの確認

キャッシュ ステータスを表示するには、**show aaa cache filterserver EXEC** コマンドを使用します。次に、**show aaa cache filterserver** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show aaa cache filterserver
Filter      Server      Age Expires Refresh Access-Control-Lists
-----
aol         10.2.3.4    0    1440    100 ip in icmp drop
           ip out icmp drop
           ip out forward tcp dstip 1.2.3...
```

msn	10.3.3.4	N/A	Never	2 ip in tcp drop
msn2	10.4.3.4	N/A	Never	2 ip in tcp drop
vone	10.5.3.4	N/A	Never	0 ip in tcp drop



(注) **show aaa cache filterserver** コマンドは、特定のフィルタが参照またはリフレッシュされた回数を表示します。この機能は、実際に使用されるフィルタを決定するために管理者が使用しません。

## トラブルシューティングのヒント

フィルタ キャッシュ設定のトラブルシューティングを支援するために、**debug aaa cache filterserver** 特権 EXEC コマンドを使用します。**debug aaa cache filterserver** コマンドのサンプル出力を確認するには、このドキュメントの後半にある「デバッグ出力の例」を参照してください。

## フィルタ キャッシュのモニタリングと維持

フィルタ キャッシュをモニターおよび維持するには、次の EXEC コマンドの少なくとも 1 つを使用します。

コマンド	目的
Router# <b>clear aaa cache filterserver acl</b> [ <i>filter-name</i> ]	特定のフィルタまたはすべてのフィルタのキャッシュ ステータスをクリアします。
Router# <b>show aaa cache filterserver</b>	キャッシュ ステータスを表示します。

# RADIUS 集中型フィルタ管理の設定例

## NAS の設定例

次の例は、キャッシュ フィルタリング用の NAS の設定方法を示しています。この例では、最初に、サーバー グループの「mygroup」に接続されます。応答がない場合は、デフォルト RADIUS サーバーに接続されます。それでも応答がない場合は、ローカルフィルタ ケアに接続されます。最終的に、フィルタが解決できなければ、コールが受け入れられます。

```
aaa authorization cache filterserver group mygroup group radius local none
!
aaa group server radius mygroup
server 10.2.3.4
server 10.2.3.5
!
radius-server host 10.1.3.4
```

```
!
aaa cache filter
  password mycisco
  no cache refresh
  cache max 100
!
```

## RADIUS サーバーの設定例

次の例は、NAS にダイヤルしているリモートユーザー「user1」のサンプル RADIUS 設定です。

```
myfilter Password = "cisco"
Service-Type = Outbound,
Ascend:Ascend-Call-Filter = "ip in drop srcip 10.0.0.1/32 dstip 10.0.0.10/32 icmp",
Ascend:Ascend-Call-Filter = "ip in drop srcip 10.0.0.1/32 dstip 10.0.0.10/32 tcp dstport
= telnet",
Ascend:Ascend-Cache-Refresh = Refresh-No,
Ascend:Ascend-Cache-Time = 15
user1 Password = "cisco"
Service-Type = Framed,
Filter-Id = "myfilter",
Ascend:Ascend-Filter-Required = Filter-Required-Yes,
```

## RADIUS ディクショナリとベンダー ファイルの例

次の例は、新しい VSA 用のサンプル RADIUS 辞書ファイルです。この例では、辞書ファイルが Merit サーバー用です。

```
dictionary file:
Ascend.attr Ascend-Filter-Required 50 integer (*, 0, NOENCAPS)
Ascend.attr Ascend-Cache-Refresh 56 integer (*, 0, NOENCAPS)
Ascend.attr Ascend-Cache-Time 57 integer (*, 0, NOENCAPS)
Ascend.value Ascend-Cache-Refresh Refresh-No 0
Ascend.value Ascend-Cache-Refresh Refresh-Yes 1
Ascend.value Ascend-Filter-Required Filter-Required-No 0
Ascend.value Ascend-Filter-Required Filter-Required-Yes 1
vendors file:
50 50
56 56
57 57
```

## デバッグ出力例

次に、**debug aaa cache filterserver** コマンドの出力例を示します。

```
Router# debug aaa cache filterserver

AAA/FLTSV: need "myfilter" (fetch), call 0x612DAC64
AAA/FLTSV: send req, call 0x612DAC50
AAA/FLTSV: method SERVER_GROUP myradius
AAA/FLTSV: rcv reply, call 0x612DAC50 (PASS)
AAA/FLTSV: create cache
AAA/FLTSV: add attr "call-inacl"
AAA/FLTSV: add attr "call-inacl"
```

```

AAA/FLTSV: add attr "call-inacl"
AAA/FLTSV: skip attr "filter-cache-refresh"
AAA/FLTSV: skip attr "filter-cache-time"
AAA/CACHE: set "AAA filtserv cache" entry "myfilter" refresh? no
AAA/CACHE: set "AAA filtserv cache" entry "myfilter" cachetime 15
AAA/FLTSV: add attr to list "call-inacl" call 0x612DAC64
AAA/FLTSV: add attr to list "call-inacl" call 0x612DAC64
AAA/FLTSV: add attr to list "call-inacl" call 0x612DAC64
AAA/FLTSV: PASS call 0x612DAC64
AAA/CACHE: timer "AAA filtserv cache", next in 10 secs (0 entries)
AAA/CACHE: timer "AAA filtserv cache", next in 10 secs (1 entry)
AAA/CACHE: destroy "AAA filtserv cache" entry "myfilter"
AAA/CACHE: timer "AAA filtserv cache", next in 10 secs (0 entries)

```

## その他の参考資料

次の項で、RADIUS 集中型フィルタ管理に関する参考資料を紹介します。

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
認可の設定	「Configuring Authorization」機能モジュール。
RADIUS の設定	「Configuring RADIUS」機能モジュール
認可コマンド	『Cisco IOS Security Command Reference』

### 標準

標準	タイトル
なし	--

### MIB

MIB	MIB のリンク
なし	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>



## RFC

RFC	タイトル
なし	--

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a></p>

## RADIUS 集中型フィルタ管理の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 1: RADIUS 集中型フィルタ管理の機能情報

機能名	リリース	機能情報
RADIUS 集中型 フィルタ管理	Cisco IOS XE Release 3.9S	RADIUS 集中型フィルタ管理機能は、ACL の設定と管理を容易にするフィルタサーバーを導入しています。このフィルタサーバーは、集中型 RADIUS リポジトリおよび管理ポイントとして機能します。ユーザーは、アクセス コントロール リスト (ACL) フィルタを集中的に管理および設定できます。  この機能により、次のコマンドが導入または変更されました。 <b>aaa authorization cache filterserver</b> 、 <b>aaa cache filter</b> 、 <b>cache clear age</b> 、 <b>cache disable</b> 、 <b>cache refresh</b> 、 <b>clear aaa cache filterserver acl</b> 、 <b>debug aaa cache filterserver</b> 、 <b>password</b> 、 <b>show aaa cache filterserver</b> .

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。